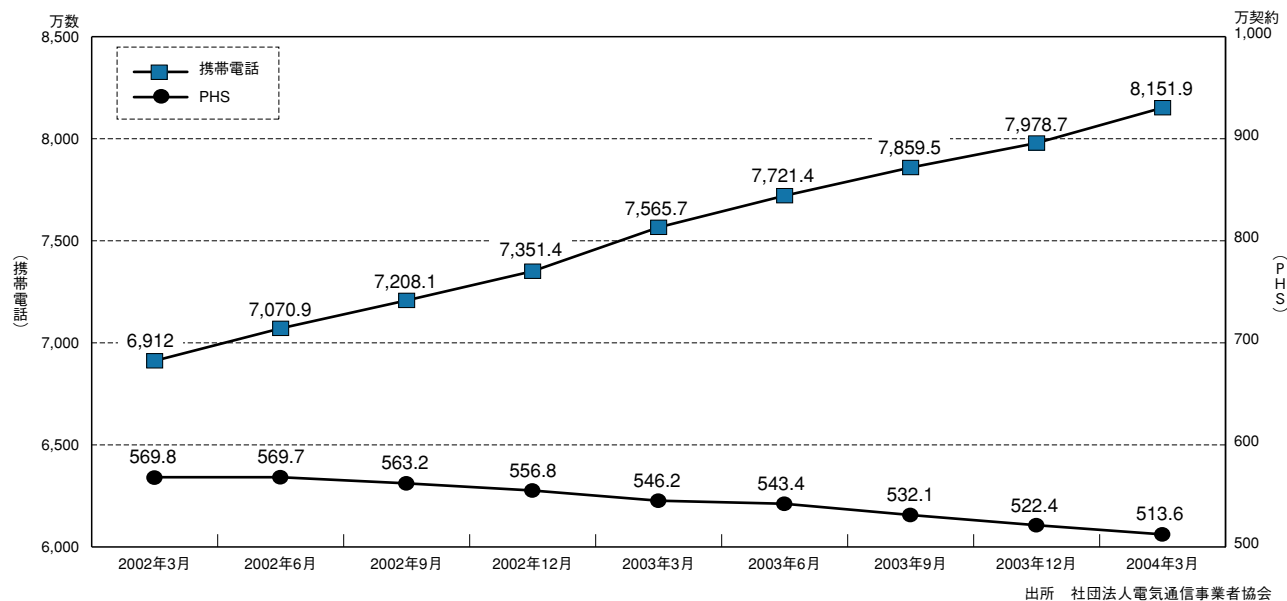


携帯電話事業者

PHS契約は減少、携帯電話は8,000万台を突破

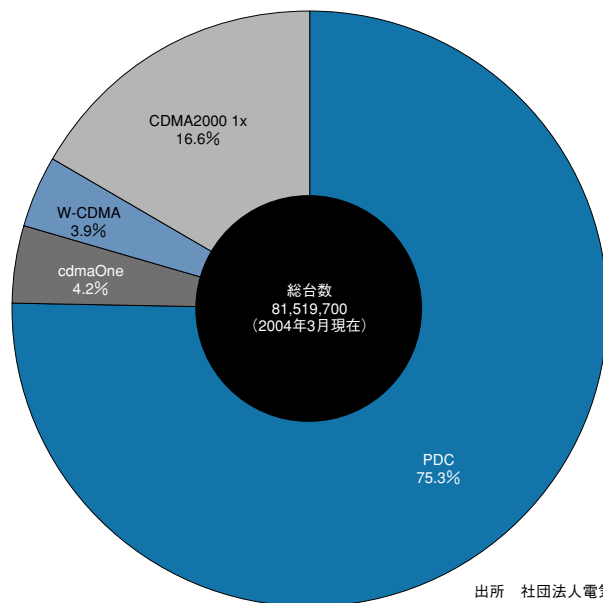
資料5-2-4 携帯電話とPHSの契約数推移



PHSと携帯電話でスケールを変えているので傾きが強調されているが、PHSの契約数は確実に減少している。2002年度の減少率はおよそ4%であるが、2003年度の減少率は5%になっている。これに対して携帯電話は確実に台数を増やしている。2003年度の増加率はおよそ8%である。

全体の75.3%がPDC。3G携帯に普及の兆し

資料5-2-5 携帯電話のシステム別シェア

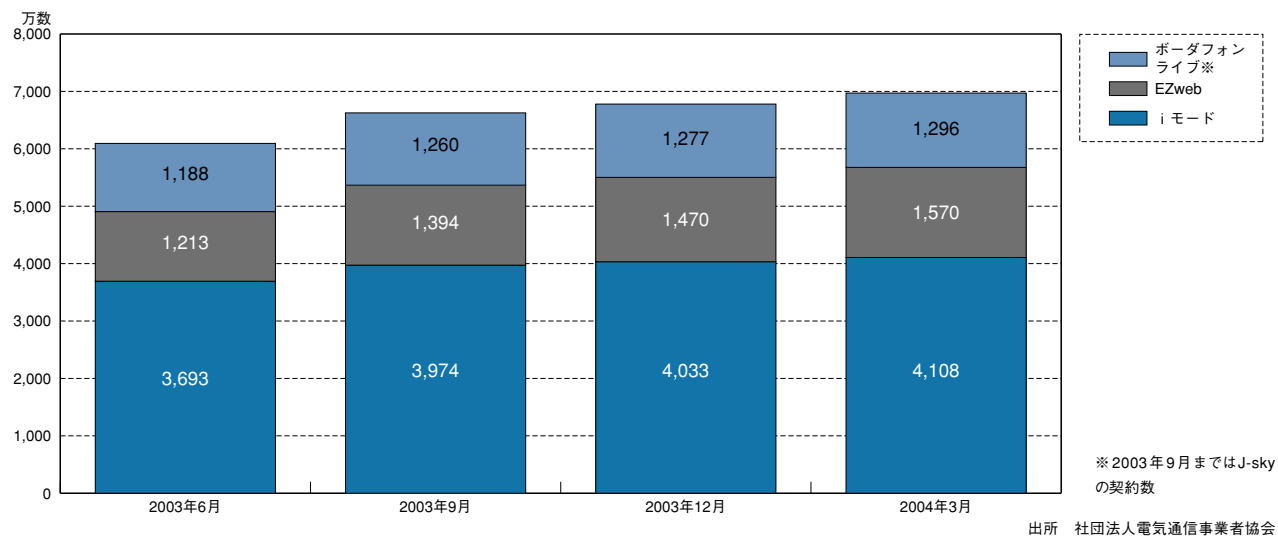


携帯電話の通信方式はPDCが75.3%と圧倒的なシェアとなっている。CDMA 2000 1x (win端末を含むauの3G携帯)は16.6%。W-CDMA (FOMA、ポータフォン)が3.9%と、いわゆる3G携帯の市場は全体の20%を超えるようになってきた。通信料金の定額化がいつそう進めば、普及に拍車がかかるものと予想される。

## 携帯電話事業者

## iモード独走。2位3位の差がわずかに拡大

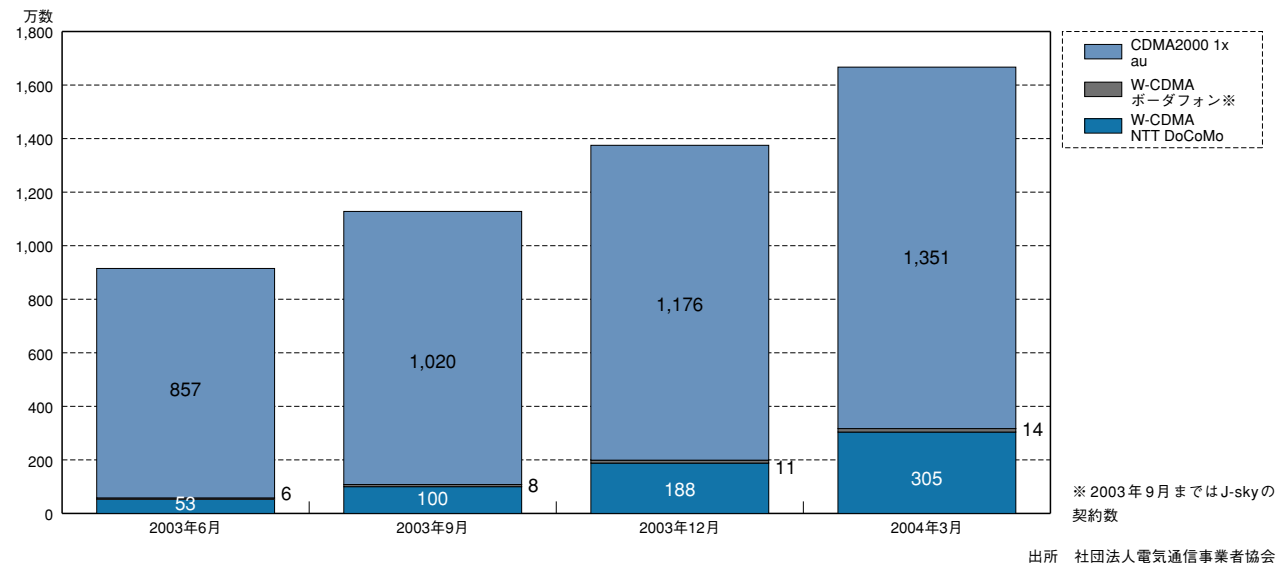
資料5-2-6 携帯電話によるインターネット接続サービスの推移とその事業者シェア



携帯電話におけるインターネット接続サービスでは、iモードのシェアが約59%（2004年3月）と圧倒的である。どの事業者サービスも契約者数を増やしているが、増加率では2位のEzwebが8%前後とトップである。そのため、2003年6月の段階では残りのシェア40%をほぼ半分ずつわけあっていたが、2004年3月にはEzwebが22.5%、ボーダフォンライブが18.5%とわずかながら差が拡大している。

## 3G携帯ではauがトップを独走

資料5-2-7 第三世代携帯電話の加入者数推移とその事業者シェア



携帯電話やインターネット接続サービスのシェアと違って、第三世代携帯電話（3G携帯）のシェアになると、auのCDMA2000 1xが3G市場の80%を占めるほど独走している。FOMA（W-CDMA NTT DoCoMo）も契約数を伸ばしているが、3G市場の18%（2004年3月）に過ぎず、win端末で先行したauの強さが際立っている。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)